

## 他力とはどんな力なの

不破 生唱

真宗は、他力の教えであるということをよく耳にします。しかし、いきなり他力について述べるのではなくて、まず他力と対になって使われている自力ということについて、話を進めていきたいと思います。自力とは読んで字のごとく、自分の力ということですから、仏法に照らしてみれば、自分の力を最高に発揮して、いくつもの苦しい修行を乗り越えて、仏になるための道を探し求めるということだろうと考えられます。

しかしながら、我々凡夫の身にては、難行苦行は到底果し得ないと思います。自力の道は、陸路の険しい道であります。それに対して、他力の道は水の上を船で行くがごとく、たやすい道であるといわれています。自分の力の限界を感じ取ったことにより、初めて他力へ目が開かれていくものであると思います。

たとえば、「自分の力で今動いている心臓の動きを止めることができますか」と問われてみても、自分自身の体のことでありながら、自分の意志で心臓を止めることはできません。また、血液の流れも同じことです。我が身のことでありながらも、自分の意志でどうにもならないということは、そこには、自分の力を超えた何か他の力がはたらいているのでしょうか。その力こそ、他力といってもいいのではないのでしょうか。

わが浄土真宗では、「他力とは本願力なり」といわれています。阿弥陀様にすべてをまかせ、ただ念仏して救われていく我が身があると教えています。

今、私たちにできる浄土への近道は、胸の前で両手を合わせて、口から南無阿弥陀仏と念仏を称えることであると思われます。朝な夕なに仏様の前で南無阿弥陀仏とお念仏することで、極楽浄土への道を進めていきたいと思います。

最後に、「阿弥陀様、私のすべてをおまかせいたします」といえるような我が身になったということが、阿弥陀様の不思議な力といえるのではないのでしょうか。